



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年9月13日

上場会社名 株式会社ゼネラル・オイスター 上場取引所 東
 コード番号 3224 URL <http://www.oysterbar.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 吉田 秀則
 常務取締役CFO 経営戦
 問合せ先責任者 (役職名) 略本部 本部長 (氏名) 安部 浩司 (TEL) 03-6667-6606(代表)
 経営戦略本部
 四半期報告書提出予定日 平成29年9月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日~平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	850	△0.8	△99	—	△100	—	△91	—
29年3月期第1四半期	858	1.4	△187	—	△191	—	△176	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 △101百万円(—%) 29年3月期第1四半期 △176百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	△58.35	—
29年3月期第1四半期	△115.46	—

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	2,064	23	△5.4
29年3月期	2,324	123	△0.9

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 △112百万円 29年3月期 △21百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載していません。開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期1Q	1,573,800株	29年3月期	1,571,800株
30年3月期1Q	一株	29年3月期	一株
30年3月期1Q	1,572,262株	29年3月期1Q	1,531,885株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府及び日銀による経済政策の効果から雇用情勢の改善をはじめとした緩やかな景気回復基調が続きましたが、世界経済の下振れリスクが顕在化し始めるなど不透明感がましてきました。

外食業界におきましては、個人消費の伸び悩みや原材料価格の高騰に加え、人材不足による採用費や人件費の上昇など、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような環境のもと、当社グループでは、平成28年4月に持株会社制に移行し、種苗、生産、加工、販売に至るまでの、安全を軸とした高品質な牡蠣の六次産業化をさらに具現化すべく取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、不採算店舗の閉店により店舗数が減少しているため、売上高850,969千円（前年同期比0.8%減）となっておりますが、浄化センターの統合、不採算店舗の閉店及び本部経費の圧縮等、採算性向上に努めているため、営業損失99,350千円（前年同期は営業損失187,993千円）、経常損失100,566千円（前年同期は191,005千円の経常損失）及び親会社株主に帰属する四半期純損失91,740千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失176,878千円）となりました。

なお、牡蠣という食材に対する消費者の認識上、冬場である11月から3月に売上が偏重する傾向にあり、通常第1及び第2四半期連結会計期間の売上高は、第3及び第4四半期連結会計期間と比較して、減少する傾向にあります。

セグメントの業績は次のとおりです。以下の売上高の数値はセグメント間の取引消去前となっております。

報告セグメントと事業の内容の関係性は次のとおりです。

- ①「店舗事業」は、店舗事業、富山入善ヴィレッジ事業の店舗から構成されます。
- ②「卸売事業」は、卸売事業から構成されます。
- ③「浄化・物流事業」は、富山入善ヴィレッジ事業の浄化・物流事業から構成されます。
- ④「その他」は、種苗及び海面養殖事業、陸上養殖事業、加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業から構成されます。

① 店舗事業

当第1四半期連結累計期間において1店舗の新規出店を行ないました。

平成29年4月にGINZA SIXに「EMIT FISHBAR」をオープンしました。この結果、平成29年6月末日現在の店舗数は30店舗となっております。

既存店においては売上高が前年同期比で5.3%増加し、従前より取り組んできた競合店との差別化やCRM強化の取り組みが実を結びつつあり、回復基調になってきております。

以上の結果、店舗事業における売上高は797,648千円（前年同期比0.2%減）、セグメント利益30,711千円（前年同期はセグメント損失49,167千円）となりました。

② 卸売事業

取引先の開拓に努め取引顧客数は増加しているものの、競合他社増加による競争激化や大口顧客の閉店等の影響を払拭するには至らず、売上が前年同期水準へ回復するには至りませんでした。

以上の結果、卸売事業における売上高は54,764千円（前年同期比7.3%減）、セグメント利益22,866千円（前年同期比2.6%減）となりました。

③ 浄化・物流事業

浄化・物流事業では、牡蠣の各産地から富山及び広島浄化センターに入荷し、自社店舗及び卸売先への出荷を行っております。また牡蠣の入荷時及び出荷時の衛生検査も実施しており、牡蠣の安全性確保、店舗及び卸売先への安定供給を支え、当社グループの安全・安心を担保する事業です。当社グループにおけるコストセンターの位置づけであり、費用を予算によりコントロールするマネジメントを行っております。当第1四半期連結累計期間においては、費用はおおむね想定水準であります。

以上の結果、浄化・物流事業における売上高は112,071千円（前年同期比3.0%減）、セグメント損失43,124千円（前年同期はセグメント損失52,375千円）となりました。

④ その他

当期は主に海面養殖の自社養殖岩牡蠣を自社店舗に出荷したことから売上が計上されております。陸上養殖及び加

工は未だ製品化に向けた段階であり、費用計上のみとなっております。

以上の結果、その他の事業における売上高は8,743千円（前年同期比11.1%増）、セグメント損失33,253千円（前年同期はセグメント損失18,644千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は2,064,779千円となり、前連結会計年度末と比較して161,222千円の増加となりました。

これは主として、未収入金204,225千円の減少によるものです。

当第1四半期連結会計期間末における負債は2,041,073千円となり、前連結会計年度末と比較して160,042千円の減少となりました。

これは主として、未払金が80,043千円減少したこと、1年内返済予定長期借入金が3,480千円減少したこと及び長期借入金が55,755千円減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は23,706千円となり、前連結会計年度末と比較して99,452千円の減少となりました。

これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により、利益剰余金が91,740千円減少したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当社は、継続企業の前提に関する不確定性が認められる状況であり、事業の継続・発展を図るべく投資家や事業会社と長期安定資金の調達及び業務提携等を協議しているところでございます。

これらの協議の結果は、平成30年3月期の連結業績に大きく影響する可能性があるため、現段階では合理的な予想地の算定を行なうことは困難であると判断し、業績予想は未定としております。

業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	60,968	34,842
売掛金	189,697	166,243
原材料	52,978	66,920
その他	355,744	102,097
流動資産合計	659,389	370,104
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,123,993	1,168,080
その他	243,227	229,202
有形固定資産合計	1,367,221	1,397,282
無形固定資産		
その他	11,178	10,278
無形固定資産合計	11,178	10,278
投資その他の資産		
敷金及び保証金	264,900	266,924
その他	21,585	20,189
投資その他の資産合計	286,486	287,113
固定資産合計	1,664,885	1,694,675
資産合計	2,324,274	2,064,779
負債の部		
流動負債		
買掛金	148,713	157,025
短期借入金	149,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	235,440	231,960
未払法人税等	7,369	2,183
ポイント引当金	26,815	23,421
株主優待引当金	11,489	11,489
その他	492,326	373,136
流動負債合計	1,071,154	999,217
固定負債		
長期借入金	535,235	479,480
繰延税金負債	252,988	252,637
資産除去債務	128,044	121,178
その他	213,693	188,560
固定負債合計	1,129,961	1,041,856
負債合計	2,201,116	2,041,073
純資産の部		
株主資本		
資本金	353,444	353,944
資本剰余金	422,501	423,001
利益剰余金	△797,301	△889,042
株主資本合計	△21,356	△112,096
新株予約権	2,866	3,583
非支配株主持分	141,648	132,219
純資産合計	123,158	23,706
負債純資産合計	2,324,274	2,064,779

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	858,252	850,969
売上原価	270,091	275,504
売上総利益	588,160	575,465
販売費及び一般管理費	776,154	674,816
営業損失(△)	△187,993	△99,350
営業外収益		
その他	74	2,769
営業外収益合計	74	2,769
営業外費用		
支払利息	3,086	3,984
営業外費用合計	3,086	3,984
経常損失(△)	△191,005	△100,566
特別利益		
国庫補助金	15,000	—
特別利益合計	15,000	—
特別損失		
税金等調整前四半期純損失(△)	△176,005	△100,566
法人税等	872	602
四半期純損失(△)	△176,878	△101,168
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△9,428
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△176,878	△91,740

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△176,878	△101,168
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△176,878	△101,168
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△176,878	△91,740
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△9,428

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において営業損失461,918千円、経常損失475,079千円、親会社株主に帰属する当期純損失744,051千円を計上し、当第1四半期連結累計会計期間においても営業損失99,350千円、経常損失100,566千円、親会社株主に帰属する当期純損失91,740千円を計上しております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

今後、当社グループは以下の対応策を講じ、当該状況の改善及び解消に努めてまいります。

(1) 事業について

① 店舗事業

不採算店舗の閉店は一巡したため、販売施策やCRMによる顧客囲い込みを強化し、収益性の向上に努めます。

またコスト高になりつつある現状を鑑みて、牡蠣の自社グループ生産や原材料仕入方法の見直しによる原価低減、シフト管理の徹底による人件費抑制、備品消耗品をはじめとした経費削減にも努めてまいります。

② 卸事業

国内卸に関しては、取引先の開拓に努め取引顧客数を継続的に増加させていくことに加え、大口顧客の開拓にも引き続き尽力してまいります。

アジア展開に関しては、沖縄県に牡蠣の浄化水槽を賃借したため、取引を速やかに開始するとともに取引量を拡大させるべく販路開拓に努め、収益力向上を目指します。

③ 浄化・物流事業

従来2拠点（広島県及び富山県）にあった浄化センターを2016年9月に富山県に集約し、業務の効率化、集約化を行い、費用削減を実行いたしました。富山県の浄化センターにおいてもさらなる業務の効率化を行い、費用削減を図ってまいります。

④ 持株会社

業務の効率化、必要機能及び人員数の見直し等の経営合理化を行い、費用削減を行ってまいります。

(2) 財務基盤の安定化

営業損益の改善、運転資金や事業資金の確保に向けて、長期安定資金の調達を検討し、投資家や事業会社と協議を進めてまいります。

しかし、これらの対応策の効果の発現については、関係先との明確な合意を要する事案もあり、すべてを確定するに十分な状況には至っておらず、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	店舗事業	卸売事業	浄化・ 物流事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	798,912	59,089	120	858,121	130	858,252	—	858,252
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	115,441	115,441	7,742	123,183	△123,183	—
計	798,912	59,089	115,561	973,562	7,872	981,435	△123,183	858,252
セグメント利益 又は損失(△)	△49,167	23,470	△52,375	△78,071	△18,644	△96,716	△91,277	△187,993

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「種苗及び海面養殖事業」、「陸上養殖事業」及び「加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業」を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△91,277千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	店舗事業	卸売事業	浄化・ 物流事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	795,961	54,764	243	850,969	—	850,969	—	850,969
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,687	—	111,827	113,514	8,743	122,258	△122,258	—
計	797,648	54,764	112,071	964,484	8,743	973,227	△122,258	850,969
セグメント利益 又は損失(△)	30,711	22,866	△43,124	10,452	△33,253	△22,800	△76,550	△99,350

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「種苗及び海面養殖事業」、「陸上養殖事業」及び「加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業」を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△76,550千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

従来、「固定負債」の「その他」に含めていた「繰延税金負債」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結貸借対照表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」の「その他」に表示していた466,682千円は、「繰延税金負債」252,988千円、「その他」213,693千円として組み替えております。

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、平成29年7月31日を契約日とし、以下の借入を行っております。

(1) 資金用途	運転資金
(2) 借入先の名称	株式会社ケイ・メディックス
(3) 借入金額	150,000千円
(4) 借入利率	年率3.0%
(5) 借入実行日	平成29年7月31日
(6) 最終返済期限	平成29年10月31日
(7) 担保提供資産及び保証の内容	当社が保有する株式会社ヒューマンウェブ株式200株
(8) その他の重要な特約等	なし